



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2021年4-6月号

Vol.55

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈り、ご支援を心より感謝いたします。

私たち家族の住む東京では4月末から今年2度目の緊急事態宣言が発出され、主に自宅で過ごす日々が続いています。教会の礼拝はオンラインが基本になり、私も5月2日に所属する教会でカメラに向かって礼拝説教を語らせていただきました。協力牧師としてオンラインの学び会を導いたり、Zoomでの交わり会の場を導いたりしていますが、「空間を共有してともに食事をして交わる（使徒2:46~47）」ことを完全に補完するものではないという限界を感じている人も多いのではないかと類推しています。

「集まることができない」という状況が「教会が教会であること」についての大切な何かをかえって際立たせています。捕囚時代のイスラエルの民が、神殿でのソロモンの祈りに基づき（第一列王記8:48）、エルサレムの神殿の方角に向かって祈っていたことが、ダニエル書からも分かります（ダニエル6:10）。神殿は「かつてあったが今はなく、やがて回復されるもの」です。教会の本来の姿の一部が外部要因によって疎外されている今、私たちはかつてイスラエルの民のように、神の約束を覚えて祈りを捧げるよう

召されていると教えられています。

4月8日には長女かなえの入園式がありました。市内にある「サフラン愛児園」は、プロテスタントの教会「西東京キリスト教会」に附属する幼稚園で、家から自転車で10分ほどの距離にあります。先生方はクリスチャンで、登園すると礼拝・お祈りで始まり、賛美歌を歌います。初めての場所は緊張する長女も、教会学校からの友達がいるから安心できます。

「幼保無償化」が施行されたのが2019年10月です。この制度がなければ私立のキリスト教幼稚園に子どもを送ることは私たちの場合、経済的に難しかったでしょうから、神の特別なご配慮を感じます。この状況のなか、家族4人、神の前に健康を守られていることは大きな恵みです。皆様のお祈りに感謝いたします。



HSC (Highly Sensitive Child) の学び

ひといちばい敏感な人 (Highly Sensitive Person=HSP) というのは、アメリカの心理学者エイレン・N・アロン氏によって提唱された概念で、近年では日本でも耳にするようになりました。数年前に HSP に関連する書籍を何冊か読んでから、私はよりよく自分を知ることができるようになりました。HSP へのカウンセリングを専門とするデンマーク人の牧師、イルセ・サン氏が書いた『鈍感な世界に生きる敏感な人たち』という本のなかに、「HSP テスト」というのがあります。60 を超えると HSP だという判定なのですが、私のテスト値は 109 でしたので、間違いなく HSP と言えるでしょう。

人間には刺激に対して敏感で慎重なタイプとそうでないタイプの遺伝子があり、人種に関係なくその割合はだいたい 1:4 だそうです。つまり HSP の割合は 5 人に 1 人ぐらいの少数派になります。これは遺伝的傾向なので赤ちゃんのころから現れ、後天的に変わるものではありませんし、治療や矯正すべきものでもなく、「個性」と考えるべきだとアロン氏は言っています。

長女のかなえは私と同じく明らかな HSP と思われます。アロン氏は『ひといちばい敏感な子』という書籍を著しており、「Highly Sensitive Child=HSC」という言葉を用いて、この性質を持つ子どもを育てる親が学ぶべきことを紹介しています(ちなみにアロン氏自身もその子どもも HSP です)。HSC は、以下の 4 つの資質をすべて持つと言われます。1. 深く処理する(考える)。2. 過剰に刺激を受けやすい。3. 全体的に感情の反応が強く、特に共感力が高い。4. ささいな刺激を察知する。これらの性質によって「脳の刺激と処理の総量」が人よりも大きいため疲れやすかったり適応するのに時間がかかったりするのです。「普通の子どもにできることが同じようにできない」ことも多いのです。だから親や教育者に理解と知恵が必要なのだとアロン氏は言います。大勢にとっての「普通」を HSC に押しつけない、というのが大切になりますし、大人になった HSP にとっては、「自分は他者と違うことを理解し、自分を大切にすることを学ぶ」ことが大事です(私は燃え尽きと鬱病を経てこの大切なレッスンを学びました)。アロン氏は前掲書のなかで「人と違う子どもを育てるのだから、人と違う親になる覚悟をする必要がある」という言葉を繰り返しています。この言葉は HSC の子育てに限らず、どんな子育てにも、あるいは「自分育て」や「教会の牧会」などにも共通して言えることなのではないかと思えます。「人と同じ子ども」などいないし、「他と同じ教会」もないのですから。

私自身が HSP として、この社会で生きていくのが人よりも大変だと感じることもあります。「社交性」はゼロに近いですし、新しい環境への適応に時間がかかり、人よりも疲労しやすく、深く考える性質ゆえ素早い決断ができないなど、「コミュ力重視・スピード至上主義」の現代社会とは真逆の性向です。しかし、共感力の高さや深い思考力、鋭い観察眼や微細な変化の察知など、社会にとってなくてはならない資質を備えているのも HSP です。娘は「神のもの」で、娘がこの世界への神からの贈り物となるよう、そのポテンシャルを発揮するために、私たちは「子育てという一時的な特権」を委ねられていると考えています。「壊れやすい宝」のような HSC を、私たちが磨き、「世の光」として将来輝けるよう、祈りながら子育てしていきたいと願います。



愛知大学のオンライン授業と SDGs



世界の貧困と環境破壊
5月11日 食農環境最新事情
FVI 声なき者の友の輪 陣内俊

大学教授をされている旧知の恩人からのご依頼をいただき、5月11日に、愛知大学・地域政策学部の「農業最新事情」の1コマを受け持たせていただきました。当初は対面授業が予定されていたのですが、状況を鑑みオンラインの授業になりました。「世界の貧困と環境破壊」というテーマで、環境破壊とコロナ禍はつながっていること、その根底にはグローバリズムと資本主義の矛盾があることなどを、12年間のNGO活動で見聞

きした海外の知見を交えて語らせていただきました。後日の学生たちからの応答を読むと、今の若い世代が「経済・社会の持続可能性」というトピックに並々ならぬ関心を抱いていることが伝わってきました。教会は社会における「預言の声」として、もの言わぬ被造物たちの権利をも代弁すべきというのが私の確信ですから、このような奉仕の機会も FVI の活動をする特権です。皆様のお祈りに感謝します。

「オンライン聞き屋」の経過報告

3月からメールマガジン読者を対象に、オンラインでの「聞き屋ボランティア」を試しています。この3ヶ月で、様々な年代、性別、ご職業、地域からの7名の方々のお話を Zoom にて聞かせていただきました。中には海外に住む方もいらっしゃいました。応募して話してくださった方々は皆「親密な交わり」を必要としており、1対1での深い対話と傾聴をとおしてそのよう機会を提供できたことに意義があるという手応えを覚えています。引き続きお祈りいただけますと幸いです。

メッセージ要約：「神の声を聴く方法」

主題聖書箇所：詩篇 119 篇 105 節

キリスト者にとって最も大切なことは「神に聴き、従うこと」と要約されます。次の5つの基本が重要です。1. 日々、御言葉を学ぶ。2. 交わりの中にいる。3. 従う。4. 静まる時間を取る。5. 「御霊の知恵」を得る。というのが5つの基本です。神は必ず啓示された御言葉の中で語られますし、その御言葉は、旧約は言うに及ばず新約もまた、宛先は常に「個人」ではなく「共同体」です（公の場所で朗読された）。「従うかどうかは聴いてから決める」という人に神が語られるかは疑問ですし、いつも脳内を別のもので満たしていると神の声が入る余地がありません。「御霊の知恵」というのは誤解されがちなのですが、使徒の働き 15 章の「聖霊と私たちは・・・決めました」とあるのは、超自然的な啓示の類いではなく、主の僕たちの長年の学び、経験、理性を用いて到った結論のことを指しています（ティモシー・ケラー『この世界で働くということ』）。

逆に「すべてのことに正解があるはず」という正解主義や、不安から来る「すべてを把握しておきたい」という願望、「自由からの逃走」をし、選択した責任を回避するための「神に聴く行為」はすべて、神への傾聴を「占い」に接近させる危険を孕みます。上記に通底する原則は、「神に聴くことは、“神との親密な関係”というより大きな概念に包含されている」ということです。詩篇 119 篇 105 節にあるように、神に聴くことは「足下を照らす光」です。「完全な地図をもらってあとは一人で旅する」のではなく、「コンパスを片手に、神と対話しながら、人生の旅路を味わう」という生き方を選ぶことが重要です。



YouTube でこのメッセージが聞けます

祈りの課題

- ◇俊・純子・かなえ・ななみの体調が守られ、感染症からも守られるように。
- ◇かなえが新しい環境（幼稚園）に慣れ、楽しめるようになるように。
- ◇コロナ禍で先の予定の見通しが立ちづらいですが、「大切なことは向こうから来る」ということを大切に働きに取り組みたいと思っています。神が最適なときに最適な働き扉を開いてくださるように。
- ◇コロナ禍の厳しい中ですが、支える会・FVIの財政を主が支えてくださり、活動が継続していけるように。

2021年7月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
8月1日	礼拝メッセージ	練馬グレースチャペル
10月	「愛の言葉」の種まきキャンペーン（仮題）	練馬グレースチャペル
10月25日	FVI 総会	本郷台キリスト教会（またはオンライン）
随時継続的に	聖書的世界観／包括的宣教の啓発・訓練	国内各地

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

〒202-0014 東京都西東京市富士町 4-4-15-402 「陣内俊を支える会」代表 牧恵子 070-5573-9337

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

*振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。

*振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）

*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。